



新年にあたってのご挨拶

社友会会長 大西光男

社友会会員の皆様、あけましておめでとうございます。

新年を迎え、穏やかに過ごされた三が日もあっという間に過ぎ、急速に再拡大するコロナ感染症に戸惑いと恐れを感じている会員の皆さまも少なくないと思います。年末年始の人流の増加と新たな変異株であるオミクロン株の感染速度の速さでしょうか？

コロナ禍において、社友会総会が2020年、2021年の2年にわたり開催されず残念ながら満足な活動ができない状況が続いていましたが、昨年後半、ようやく第5波が下火となり、2022年の社友会活動は通常通りの活動再開に向けて徐々に取り組みを開始できると期待しておりました。

しかしながら、全国的に第6波まん延拡大状態となっており、2022年社友会活動もまた、昨年同様、リモート会議やホームページによる情報伝達など一定の制限のもとに活動せざるを得ないことをご理解賜りたいと思います。

一方、コロナ禍の完全な終息は不透明な中ではありますが、人々の感染予防意識の高まりに加え、コロナ予防策としての第3回目のワクチン接種、経口治療薬の承認等により予防環境は充実していくと考えます。

コロナとは共生の時代になると言われております。コロナと共生のための「新しい生活様式」を身に付け実践し、感染拡大を防止しましょう。



秋谷・立石海岸からの富士山

このような環境にあることを前提に、第6波感染状況が下火となり、5月21日に予定している総会・懇親会を開催できることを祈っております。そして、今年こそ一日も早く元の生活を取り戻し、東亜石油社友会がますます充実した活発な活動を再始動できることを願っております。

皆様には顔を合わせ語り合う集いの場が持てるよう提供し、あるいは社友会ホームページでの発信力による社友の絆を強め、東亜石油社友会をさらに魅力あるものとしていく所存であります。

会員の皆様には、感染防止対策とともに体力維持増進に努めるとともに、今後とも、社友会の運営と活動に格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

会員の投稿記事

久しぶりの京都旅行 斎藤 肇さん

二回目のワクチン接種も済んだし、久しぶりに京都に行ってみようかと8月初旬にJTB旅物語の「秋の京都旅行:3泊4日フリーコース」に申し込んだ。幸いにも11月になってコロナの感染も全国的に収まってきたこともあり予定通り11月28日に京都に向かった。

12時東京発の新幹線だったので京都に着いたのが14時半頃、堀川五条の京都東急ホテルにチェックイン後、比較的近い「清水寺」に行くことにした。市バスを使って清水道というバス停で降りて清水の坂を登って行ったが、天気も良く日曜日ということもあり観光客で一杯だった。

修学旅行生はそれ程多く見かけなかったが若い人達が多く着物姿の若い娘は素敵でした。夕方だったので日没の清水寺を見ようと寺の回廊は人であふれていた。コロナなんて関係ないという状況でした。ただ紅葉は最高でした。



清水寺

その日は他に回れないので、河原町・祇園近辺で食事しようと京都懐石料理屋を探したが、予約なしでは入れずビルの最上階にあるレストラン街で京都料理を見つけ食事をした。やはり結構な値段だった。

二日目、天気も良く暖かい日になった。先ず、ホテルのシャトル便で主要バスが発着する京都駅に行った(10分弱)。市バスの一日券が700円で乗り放題なのでそれを購入し、今日の最初の目的地の「銀閣寺」へ行くバスに乗車した。約40分程で銀閣道というバス停に到着、哲学の道をゆっくり散策しながら銀閣寺向かった。観光客は昨日と違って大分少なかった。銀閣観音殿、円錐台形の砂盛り向月台、白砂が段形に盛られた銀砂灘、苔むした庭園を散策。室町幕府8代将軍・足利義政が造営に着手した山荘でその後に禅寺となり質素ながらも気品の漂う東山文化の象徴で素晴らしかった。ここに来たのは高校の修学旅行以来だ。



銀閣寺



バス停に戻り、大原三千院に行こうとしたがそのバス停からは三千院行のバスはなく、何処かで乗り換えて行かなければならないようなので「金閣寺」行きの市バスに乗った。確か40～50分程乗ったような気がする。金閣寺の駐車場には何台かのバスが駐車していて修学旅行生やツアーの観光客で銀閣寺周辺より人が多かった。

金閣寺は足利義満が極楽浄土をイメージして造営したが後に禅寺となり、武家と公家の文化を融合した豪華な北山文化の象徴とされた。金閣舍利殿は昭和30年に金箔を使って補修されたので晴れた日の写真には映えるが、私は落ち着いた上品さが漂う銀閣寺のほうが気に入った。庭園を散策していたら抹茶を振舞うお店(茶室風)があったので立ち寄り、前庭の縁台で抹茶とお菓子をいただいた。歩き疲れていたのでおいしかった。



金閣寺



金閣寺を見終わってから「龍安寺」を目指した。「きぬかけの路」を通って歩いて30分程で行けるというので歩き出した。昼過ぎていたので途中で湯葉入りのうどんを食したが、うどんにこしがあり汁もダシがきいていておいしかった。きぬかけの路は衣笠山の麓をカーブを描きながら走る全長3km弱の路で金閣寺から仁和寺まで続いている。この路は結構アップダウンがあり立命館大学の脇を通りながら龍安寺に着くまでに1時間位歩いたような気がした。結構きつかった。

龍安寺は1450年に細川勝元が創建。敷き詰められた白砂の中に大小15の石が配された方丈の前庭は七・五・三の庭ともいわれ禅の教えを表現した名庭として有名である。方丈の縁側に腰掛けてこの庭を見つめると疲れがとれ何か心が落ち着いてくる気がした。



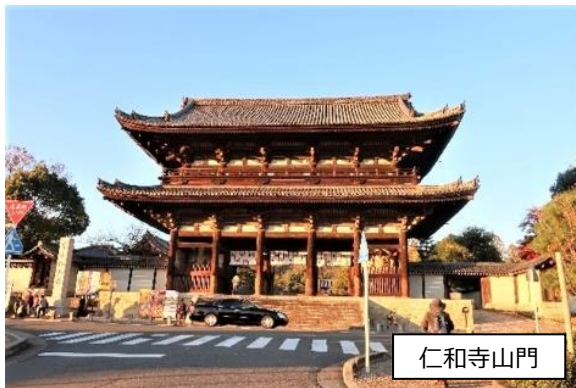
龍安寺

方丈の裏側には「吾唯足知」(われただたるをしる)という釈迦の言葉を図案化したつくばいがあった。水の落ちている四角の部分に4文字の口の部分を表し、上が吾、右が唯、下が足、左が知と読めるように作られている。面白い。



つくばい

龍安寺を出て「仁和寺」まで頑張って歩いた。仁和寺は真言宗御室派の総本山で(我が家は真言宗智山派)代々皇族が住職を務めたお寺で入口の大きな山門や金堂が有名である。金堂の入口には大きな松の木があり一本の木から何十畳もあるような見事な枝ぶりだった。また金堂の回廊から見える五重の塔も紅葉の中に見事に映えていた。



仁和寺山門



仁和寺の松の木



仁和寺五重の塔

この金堂では豊島将之 竜王と挑戦者の藤井聡太さんとで第34期竜王戦が行われたようだ。



帰りは御室仁和寺駅から嵐電北野線で京都撮影所駅(東映太秦映画村がある)まで行き太秦駅でJR嵯峨野線乗り換え京都駅に向かい5時半頃着いた。その日は京都駅のレストラン街で豆腐料理店を探し40分位待つて入ることができた。日本酒とマッチしておいしかった。

三日目、連日の歩いての散策で疲れが出ていたが、嵐山方面に行くことにした。

京都駅からJR山陰線の嵯峨線に乗り、約30分程で嵯峨嵐山駅に着いた。そこからトロッコ電車に乗る手もあったが、歩いて竹林の道を通って天龍寺に行くことにした。竹林は今でも青々としており、その道は静かで葉がすれの音など別の所に迷い込んだような心が洗われるような気分になる。

私も広い竹林を親から引き継いだが毎年の伐採作業が大変で大分前に業者に頼んで全部伐採し、根まで抜いてもやしてしまった。今は畑になっている。

この道は「天龍寺」の北門に通じているので北門から天龍寺に入った。



竹林の路

天龍寺は臨済宗天龍寺派の総本山で足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うため創建した。庭園と法堂の天井に描かれた雲龍図(撮影禁止)が有名である。どこから眺めても睨まれているように見え、「八方睨みの龍」とも呼ばれている。



天龍寺の正門を出て「渡月橋」に向かった。道の両側にお店が連なっており、修学旅行生も含め観光客で一杯だった。



渡月橋の近くのバス停から西芳寺行きバスに乗った。西芳寺は境内一面を覆う苔の美しさから「苔寺」としてしまわれている。修学旅行で行ったときの思い出があったのでぜひ拝観したいと行ってみたが現在は庭園を維持するため事前申込制になっており残念ながら入ることができなかった。

昼食後、近くの「華厳寺(鈴虫寺)」に行った。3000匹程の鈴虫が7箱に分けて入っており1年中鳴いている(1年中鳴かすようにするには長年研究したらしい)。この鈴虫の声(羽をすり合わせている)を聞きながら60~70人程入れる座敷で住職の鈴虫説法が約30分程行われる。なかなか面白い説法で人気がある。「慈肅陽静」(コロナ下の自肅要請にひっかけた)の各々4文字の意味、大切さを面白可笑しく話してくれた。

京都駅行きのバスに乗り、途中に二条城近くのバス停があったので疲れていたけれども二条城に立ち寄った。

二条城は徳川家康が京都御所の守護と将軍上洛の宿泊所として築いたお城で慶喜が大政奉還の意思を表明した舞台として有名である。大広間、遠侍、式台老中の間、白書院などの部屋がある。庭園を散歩して今日の観光は終わった。

最後の日は15時の新幹線で帰る予定になっていたのですが、京都駅周辺の「三十三間堂」と「伏見稲荷大社」に行った。

三十三間堂は一時焼失したが御嵯峨上皇によって現在の本堂が再建され中尊丈六千手観音座像、1001体の等身大・千手観音像、これらを守護する風神・雷神像、観音二十八部衆像が並ぶ様子は圧巻であった。丁度、住職と数人のお坊さんの読経を30分程聞くことができた。



最後の観光場所となった伏見稲荷は全国に約3万社ある稲荷神社の総本宮で五穀豊穡、家内安全の神様として信仰を集めている。また、本殿背後から連なる朱色の「千本鳥居」は有名で山の頂上までつながっているがとてもそこまでは行けないので途中で引返してきた。そしてゆっくりと京都駅まで戻り京都のラーメンを食したがいろいろな唐辛子の辛味が効いておいしかった。

こうして三泊四日の京都旅行は終わったが天気にも恵まれ行きたいと思っていたところは回ることができた。しかしまだまだ京都内に観光名所があちこちにあるので健康で歩き回れるうちにもう一度計画してみたい。



趣味と同好の集い

2年ぶりウォーキング有志の会 再始動！！



みなさん こんにちは！！
今日は、「鎌倉アルプス」を縦走し、紅葉狩りを楽しめます。
2019年末発生した新型コロナウイルス感染症により、およそ2年間自粛を余儀なくされていたウォーキング。

2021年10月24日全国的に緊急事態宣言の解除が発令され、首都圏でも感染者数が激減し、落ち着きを見せている状況から12月11日再開されるという案内を受け、ワクワクしながら参加した。もちろん幹事さんから参加にあたっては、感染防止対策を徹底するよう注意書きがありました。

午前9時、JR京浜東北線本郷台駅前では、コロナ禍を元気に乗り越えてきたメンバーが懐かしい再会に笑顔で声ははずませていました。

参加者13名が揃って、いざ出発です。

本郷台駅前から柏陽高校(神奈川県のある進学校)のそばを流れる小川に沿って歩き、いつものコンビニで昼の食料を仕入れ、荒井沢市民の森を目指します。

住宅街を抜け、1時間ほど歩くと小春日の陽射しで額の汗が止まらない状態でした。休憩を兼ねて日陰で汗を拭きシャツを着替えたり、上着を脱いだりでした。

さらに荒井沢を目指します。右手に横浜永久の杜と立派な老人ホームを横目で見ながら山道の入り口に到着、ここからは舗装道路ではなくハイキングコースなりの山道に入っていきます。

きれいに整備された沢の渡りを通して広場に出たところでまずは証拠の集合写真を撮りました。

途中、富士山が見える展望台で富士山を一枚。荒井沢とうちやこ(NHK BSの正平さんを真似てみました)で記念の案内板をもう一枚。



展望台から望む富士山

次は、財在ヶ池(鎌倉湖)森林公園を目指して歩を進めます。ハイキングコースらしい山道を抜けると鎌倉湖への舗装道路に出ます。ここから約10分で鎌倉湖畔に到着、汗を拭きながら休憩、だんだん紅葉が進んで目を楽しませてくれます。ここで再度の記念の写真！



鎌倉湖畔にて



荒井沢の渡り



鎌倉湖を後にして坂道を上り、住宅街の中を抜けると半僧坊下のバス停に出る。

さらに5分ほど歩くと「天園ハイキングコース」の今泉台分岐です。この分岐を左に折れて大平山(海拔159.2m)の頂上を目指します。約1時間の山登り。山道はよく整備されていて歩きやすく、登りやすかったです。(最後の急坂を除いて・・・)

頂上到着。すぐ近く下方に天園広場があり、丁度昼時でお弁当を広げているハイカーで賑わっていました。



鎌倉市最高地点：大平山頂上

それを横目に見ながらその先の天園休憩所へ行く途中、山奥だと思っていたら隣はゴルフ場、ビックリでした。もっと驚いたのはハイキングコースに乗用車が乗り入れてきた。しんどい思いをして登ってきたのに車で来られるんだ～～・・・

残念なことに2年前には休憩所があって「おでん」などを売っていたのですが、なくなっていました。(コロナ禍のあおりを受けたのでしょうか?)

休憩所の跡地の近くでブルーシートを広げ、昼食タイムです。



昼食タイム

ここで“雑学”をひとつ？

天園は鎌倉市と横浜市の境にあり、鎌倉の街並みや相模湾を見渡せる景勝地です。

横浜市の最高地点にもなっているそうです。

天園という名前はかつて東郷平八郎が「天国の園に遊ぶようだ」と形容したことに由来すると言われています。

昼食を終え、瑞泉寺方面へ下ります。階段で整備された登りに比べると勾配も急でなかなかワイルドな道です。20分ほど下ると、森の開けた土地に青空に映える真っ赤な紅葉の天井が現れます。ここが獅子舞(紅葉谷)。鎌倉の隠れた紅葉スポットと言われています。この時期おすすめの散策路らしく、カメラを構えた上り下りのハイカーのグループで賑わっていました。



獅子舞(紅葉谷)

紅葉狩りを楽しみながら、二階堂川沿いに下る山道は苔むした石や岩肌が点在しており、滑らないように注意が必要でした。

山道を降りきったところで後続組を待ち、全員集合しましたが、いつの間にか見知らぬ女性加わっています。



謎のギリシャ人女性

永福寺(ようふくじ)跡を右手に見ながら進み鎌倉宮でトイレ休憩。鎌倉宮では遠目でしたが、婚礼の白無垢姿が紅葉に似合っていました。



鎌倉宮

鶴岡八幡宮の境内を通り、小町通りへ。コロナ以前の賑わいを取り戻しつつある小町通の一角で全員が無事・安全にウォーキングを完遂できたことを確認し、解散となりました。

今回のウォーキングでは、後期高齢者の仲間入りまで一か月を切った加齢と2年間の巣籠り生活による運動不足で体力(筋力)の衰えを痛感した24,000歩のウォーキングでした。

また落ち着きを見せているコロナ感染状況ですが、残念ながら反省会一杯は自粛し、2022年2月のウォーキングでの再会を約してそれぞれの電車に乗り込みました。

蛇足ですが、獅子舞からいつの間にか合流した女性はギリシャから訪れた観光客(?)らしいのですが、どなたが彼女とアドレスを交換したか(?)は私には謎です。

【コース概略】

JR本郷台駅 → 荒井沢市民の森 → 鎌倉湖(財在ヶ池)
→ 大平山 → 天園ハイキングコース(鎌倉アルプス):
獅子舞 → 永福寺跡 → 鎌倉宮 → 鶴岡八幡宮 →
小町通り → JR鎌倉駅
参加者: 13名(ギリシャの女性を除く)



情報交換会

昨年7月から急激に拡大したコロナ感染症第5波が10月に入り下火となり、全国的に緊急事態宣言が解除され、社会経済活動も回復に向かって動き始めた11月9日、東亜石油人事総務部とフリートーカーの機会を設定して戴きました。

この会は、東亜石油からは事業活動等のトピック、社友会からは活動や運営に関する情報について意見交換の場として、随時開催形式で木村前人事総務部長時代に運用を始めました。しかし、長引くコロナ禍の影響で対面での開催がなかなか実現しませんでした。11月に入り、コロナ感染者数の減少が進んでいる状況で、東亜石油人事総務部も部長(江口裕様)、課長(山中敏之様)が新任になられていることから、懇親の機会を兼ねて開催されました。山中総務課長は出光興産から11月に赴任されたとのことでした。

会社からは2022年で東亜石油株式会社に改称後80年になる。また、2024年で創立100年を迎える。社史の編纂など何か記念になる事業・行事の企画を考えている。コロナの感染状況次第だが新オフィスを含む製油所と発電所の見学会も一つの案として考えられるとのことがありました。

社友会は会員数の伸び悩みが最大の課題であることを報告した。

会社から「デジタルサイネージ」というテレビモニターを活用したビジュアルなシステムを 設置しているので、社友会の情報として総会やその他の行事・活動の写真等を掲載して社内アピールすることを提案されました。

以上

伝言板

会員の移動

新会員

西川 誠さん 令和3年 7月 (東京都世田谷区在住)

お悔やみ申し上げます

大坂 弘二さん 令和2年12月26日(84歳)

関根 慶一さん 令和3年6月20日(89歳)

福原 澄さん 令和3年11月28日(78歳)

(令和4年1月末日現在 会員数 195名)

2022年長寿の祝い

本年の該当者は次の皆さんです。会員一同からお祝い申し上げます。

米寿(1934年誕生)

岩尾 元義(9月26日) 7月記念品贈呈

喜寿(1945年誕生)

加島 公次(1月28日) 1月記念品贈呈

伊藤 正嘉(7月18日) 飯森 俊樹(11月18日)

鳥海 善彦(12月13日) 7月記念品贈呈

(敬称略)

三十四号から「たより」の発行をネット印刷会社に発注することにより、約4万円のコストを削減することができました。

しかしながら、作業の簡素化を狙った発注先の変更には思いのほか面倒な作業がありました。その内容をここで説明することは、とても紙面が足りないので、

*投稿記事(横書き)を縦書きに書き換える際の煩雑な作業(写真の配置決め等)

*印刷会社へは冊子の設計を最終形のPDFにして入稿するので、従来のように校正をしながら最終形にすることができない。

等々でした。

そこで三十五号では従来の縦書き文章を主体とする冊子を横書き文章に変更しました。

そのため残念ですが、第二号から続いている「たより」の題字も変更することになりました。ご了承ください。

また、社友会の情報伝達手段をタイムリーに行うため導入したホームページについてPCをお持ちでない会員にも興味をもっていただけるよう別資料としてアンケート結果を同封しました。

ホームページをご家族やお孫さんと対話のネタにしていただければ幸いです。

また、ホームページ会員登録の権利をお持ちの方は是非登録をお願いします。

編

集

後

記

